

電子記録債権で資金繰り支援

大手貸貸業界初の導入

■ レオパレス21 ■

レオパレス21（東京都、深山英世社長）は、Tranzax（東京都、小倉隆志社長）が開発した電子記録債権による低金利の資金調達手法「サブライチエーン・ファイナンス」の導入を決めた。この仕組みを導入するのは大手賃貸業界では初めて。レオパレス21と取引のある工務店などが、金融機関から1%の低金利で資金を調達できるようになる。入金までのサイトも従来の70日を最短2日に短縮する。

サブライチエーン・ファイナンスは、中小企業が持つ売掛債権を電子記録債権化し、特別目的会社（SPC）に譲渡すること、支払期日前に金融市場から資金を調達できる仕組み。発注元である大手企業の信用力で資金を調達するため、中小

ことで、関係強化を図り、サブライチエーン全体のコスト競争力を高める。同社は、Tranzaxが開発を進めている「PO（パーチェイス・オーダー）ファイナンス」の導入も検討している。POファイナンスは、電子記録債権の活用により、受注段階での資金調達が可能になるもので、中小企業の運転資金不足による受注制約を排除する仕組み。

建設企業は、前払金のある公共工事と同様に、民間工事の受注段階でも工事代金債権を担保に工事着手金を調達できるようになる。

中小が低金利で資金調達